

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する
検討小委員会（第24期・第3回）議事録

1. 日時 平成30年10月9日（火）15:00～17:00
2. 会場 日本学術会議5階 5-C(1)会議室
3. 出席委員 朝比奈潔 岸田伸幸 高木和広 藤原修三 古崎新太郎
松岡猛 水野光一 山内博 山口芳裕 横田真 （50音順）

4. 議事要旨

1) 前回議事録の確認（資料1）

第2回議事録（資料1）が学術会議事務局に提出されたことが報告された。

2) 今期報告書案審議状況の報告（資料2）

藤原委員長より、9月13日に開催された親分科会に報告書案（資料2）が付議され、議場で特に質疑はなく了承された旨の報告があった。今後、両親委員会の委員長の了承（メール了承）を経て、選任される査読者による査読プロセスに入ることが紹介された。横田副委員長、岸田幹事が中心となり、分担執筆者と連携の下、査読対応することを確認した。

3) 今期の今後の活動方針について（資料3）

横田副委員長より「今後の検討の進め方について（私案）」（資料3）の説明があった。老朽・遺棄化学兵器処理に関する記録や情報が国内の様々な組織・機関に散在していることを踏まえ、今後見込まれる同事業の新展開への対応に資するため、これら資料を共有する方策を検討してはとの提案。この提案を踏まえ、各委員より発言があった。山内委員より、今秋上梓予定のヒ素中毒研究書に言及しつつ、中国で無機ヒ素長期毒性の研究が進んでおり、これに拮抗できる知見集積が望まれるとの発言があった。高木委員から過去実施されたきい剤系有機ヒ素の分析データへのアクセスについて質問が有り、内閣府担当室経由での入手可能性が紹介された。山口委員よりマスタード剤の急性中毒に関する知見の集積が必要であると指摘があった。

提案の趣旨は共有され、次回迄に情報の収集と共有の受け皿組織候補を探すこと、共有したい関連情報等の所在について各委員が情報提供すること、そして、今期の今後の活動方針に関する所見を各委員が次回会合までに準備しておくことを申し合わせた。

4) その他

次回会合日程は、12月中頃を目途に調整することとなった。

以上